

レジメン登録フォーマット

申請年月日	2021/10/4	使用開始日	
登録診療科	血液内科	申請医師	松永一美
レジメン名	R-MPV療法(CNSリンパ腫)		
疾患名	CNSリンパ腫	適応の備考	
適応分類	寛解導入		
1コース日数	14 日間	総コース数	7 コース
抗がん剤投与量・投与日	リツキシマブ375mg/m ² day1、 オンコピン1.4mg/m ² day2、 メソトレキセート3500mg/m ² day2、 プロカルバジン100mg/m ² day2-8(奇数 1,3,5,7クール目のみ)		
治療スケジュール・投与日程(投与日は●)	(day)		

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
	点滴静注																	
プライミング用																		
2	主ルート	生食500mL	0.675 本 / m ²		●													
	点滴静注	リツキシマブ注	375 mg / m ²	下記	●													
10倍に希釈する																		
3	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
	点滴静注																	
4	側管	生食250mL	1 本 / body		●													
	点滴静注	ホスアプレビタント注150mg	1 本 / body	30 分	●													
5	側管	グラニセロン注ハック1mg/50mL	1 本 / body		●													
	点滴静注	デキサート注1.65mg	3 本 / body	30 分	●													
6	側管	生食100mL	1 本 / body		●													
	点滴静注	オンコピン注	1.4 mg / m ²	30 分	●													
最大投与量は2mg/body/回を超えないこととする。																		
7	側管	生食500mL	0.6 本 / body		●													
	点滴静注	メソトレキセート注	3500 mg / m ²	3 時間	●													
生食200mL抜く																		
8	側管	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
	点滴静注																	
9	側管	生食50mL	1 本 / body		●													
	点滴静注	アイソボリン点滴静注用 ロイコボリン注として15mg/body	7.5 mg / body	5 分	●			●	●									
メソトレキセート投与開始後24時間後から6時間毎10回投与する。 メソトレキセート投与開始後48時間値、72時間値を測定し、適切な対応をとる。																		
経口投与		ポララミン錠2mg	1-3 錠 / body		●													
		ジクロフェナク錠25mg	1 錠 / body		●													
リツキシマブ投与の30分前																		
経口投与		塩酸プロカルバジン	100 mg / m ²		●	●	●	●	●	●	●							
		1日1-2回に分割して経口投与 プロカルバジンは奇数1,3,5,7クール目のみ																

【投与上の注意】

- リツキシマブ: 前投薬としてポララミン(2)1~3錠、ジクロフェナク(25)1錠を内服する。
- リツキシマブ: 初回はECGモニターをつける。
- リツキシマブ: 投与速度 初回は50mL/hで開始し、30分毎に50mL/hずつ上げ、最大400mL/hまで上げることができる。
- リツキシマブ: 投与速度 2回目以降は、医師の指示により、投与方法①、②から選択
- 投与方法①: 初回投与時に発現した副作用 が軽微な場合、100mL/hで開始、30分毎に100mL/hずつ上げ、最大400mL/h時まで。
- 投与方法②: 臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に発現した副作用が軽微、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000/μL未満の場合、最初の30分で投与量の20%を投与、残りその後60分で投与量の80%を投与(90分間で投与)。
- ホスアプレビタントは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。
- ホスアプレビタントは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。
- ホスアプレビタントの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。
- メソトレキセート: 尿のpHチェックを行い、pH7.0以上であることを確認すること。pHが低いときには、メイロン注を適宜追加投与する。
- メソトレキセート: メイロン等を含めた補液をday2~に投与する。
- メソトレキセートは、生食500mLの予備容量を超えることから予め生食200mLを抜いて調製する。